

日刊 發行所 川崎 文治 本社 同前地 (電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所

# 常盤新聞

定価 一部金貳圓 一月五圓 三月十三圓 半年二十五圓 一年四十五圓 零售 每份五分

電話 六三〇番

八月十五日夕刊

生活原理としての創造

稲毛金七

これは芝居を見ても同様で一方では我國古來の歌舞伎劇を盛んにやつて居るし、他方では築地小劇場等で翻譯劇をやつて居る、さうして民衆其歸趨に迷つて居るのみならず役者其者も亦依然歸趨に迷つて居る、更にこれは思ひ學術と云ふ方面に就いて見てもさうではなかつたと思ふのであります、尤も今日は詳しく述べる餘暇を有たないのを遺憾と致

しますか、要するに、實際生活に於ても思想生活に於ても、生活の全般に行き届いて、我國は今や過渡時代にあると云ふことは識者を俟つて知ることではない、然らば、斯の如き我國の現状が何を意味するか、私の言はむとする所は是からであります、私は只今のやうな状態に土臺に致しまして只今の我國の狀態に對しまして、一個痛切の感じを有つて居るものであります、それは一面に於て非常に喜ばしいと云ふ感じでありませう、斯う申しましたならば恐らく諸君の中には反感を有たれる方があるであら

せう、勿論私は斯の如き狀態を過渡的狀態其ものとして喜んで居るものでなく、其奥にひそんで居る、又其結果として出來する事象を豫想して喜ぶものであります、何故ならば今申しましたやうな事柄は我國民が進取的態度を以て居る結果だからであります、即ち我國民の求新——新を求める結果が斯の如き狀態となつたものだからであります、過渡時代は云ふ迄もなく古い時代から新しい時代に移る状態である。(つゞく)

外科 赤心堂病院

外科一般 耳鼻咽喉科 女性病科 ×光線科

山町 電話四七五番

梅毒 淋病 皮膚病 専門 院病村松

腸胃 専門 院病村松

内科 腸胃 専門 院病村松

十二指 腸胃病

甘くて 滋養分の多い ブドローアメ

平町十五丁目 佐藤ブドローアメ店

久保田パンヤ

看護婦派出所 平町南町 電話三〇七番

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院

院長 醫學士 高久忠 副院長 新潟醫學士 赤羽清 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄

平町田町 電話五二二三番

退痛散 特約店 大平屋藥店

平町一丁目 電話六四二番

脚氣、淋毒、梅毒、神經痛の (徳島縣、當金屋の家傳の大妙藥)

總て藥劑は服用せずして其効を論ずるを得ず敢て壹週間の服用を奨め以て其實驗的證明を俟つのみ。

森永コーラス

新鮮なる味と感覺!! 切にすゝむ名もコーラスの一杯!!!

價 八百五十グラム入 一圓五十錢

ヤトモツマ 番四一二話電

クースーリ

關内藥舖 藥劑師 關内栄助 電話四〇番

數島のヒヨケ心を人とは、商品ほごに日や雨の覆

ヒヨケ、シート、テント

磐城平町白銀町九 數島ヒヨケ店

御宴會 五品御銚子一本付金壹圓貳拾錢より

蒲燒 御一人前 金壹圓貳拾錢

うな井 金七拾錢

右の通り大勉強致します何卒御引立の程願ひ上げます

大和家 南町 (電話十四番)

印半天専門 優秀品の証明 草野染工場

電話二四八番 磐城 平町

◎徒弟入用 徒弟契約ニ付テハ年明キニ 際シ有利ニ御相談申上候

内科。外科。婦人科。小兒科。花柳病科。

磐城病院

平町田町本通り 入院隨時 (電話二一四番)

キク印 ハイトリ粉 平五丁目角 山野邊藥局

キク印 蚊取線香

### 撤水自動車の問題 相當議場を賑はす

本日前十時から開かれた  
平町會で粗上りのぼつた撤  
水自動車に關する件が相當  
議場を賑はした、佐々木龍  
若氏は自動車に依るのみで  
なく手車等に依る撤水に

#### 相當の 便宜を與へ

現在撤水區域外になつて居  
る鐵道以北の方面にも此恩  
恵に浴し得る様せしめ度い  
と述べ、萩原義雄氏は消防組  
の撤水自動車水道の水を  
使用する事は水道條例違反  
ではないか且つ水道の水は  
所有財産であるから

#### 消防組

此許可を  
與ふる場合には土木委員會  
へ諮問したばかりでは自由  
に許可する事は出来ない何  
故に會に附議しなかつたか  
と質す所あり伏見町長は

撤水に當てべき水は水道  
の餘水であるから此餘水  
を所有財産を見る事は出  
來ぬ、また料金を徴して  
撤水に當てしめたのでは  
ないから水道條例には違  
反しない、町會で附議す  
べき様運ばなかつたのは  
町會を無視した爲めであ  
る、當分試驗的消防組と  
各區との協力に依る事の  
成行き如何を見た上改め  
て町會に諮る積りで居つ  
た

と答へ井上茂作氏は消防組  
の同計畫に關する實際施設  
上に關する説明を爲し「社  
會公共の保健衛生の爲めに

#### 此事を 犠牲的に

行  
ふ事になつたものであるが  
若し世間に批難があり而倒  
が起るならば今日からでも  
見合せにしたい希望である  
と述べ野崎滿造氏は土木  
委員會が此計畫に同意した  
事情を具陳し「水道條例違  
反等と云ふ事は考へて居な  
かつた」と述ぶる所あり大  
森勇氏は「先程の伏見町長

#### 意見は

常識的に考  
へる場合正しい解釋である  
と肯けるが更に條例違反  
になるかならぬかに就き一  
層研究の歩を進めて貰ひ度  
い」と説く、斯くて一般の  
意嚮は撤水自動車の計劃に  
賛成する事に纏つた爲め町  
當局から左記議案を提出一  
名の異議なく満場一致では  
れを可決した

▲道路撤水に關する件  
近時自動車交通頻繁を  
加へ蒙塵甚敷を以て公衆  
衛生保健の爲め町内須要  
道路に對し左記方法に依  
りさん水するものとす  
一、さん水區域、當分の  
内、鐵道以南  
一、一日の使用見込水量  
五百石内外  
一、さん水方法、公設消  
火栓より取水し一日四回  
以内さん水するものとす  
一、期間、二ヶ年間但し  
期間内、雖も必要あり場  
合は中止することあるべ  
し  
一、實施方法、當分消防

組に依託し施行するもの  
とす  
▲支出概算 以上  
(六十五圓)運轉手一名給  
料(五十圓)運轉助手二名  
手當(七十八圓七十五錢)  
ガソリン廿五圓代(十五  
圓)モーターグリス八  
十圓 自動車並に付屬品  
償却費)二年七ヶ月の見  
込(十二圓)自動車修繕費  
(十五圓)廿五錢)雜費及運  
轉手係賃費(七圓)自

### 松ヶ岡公園の 櫻の木で首をツル

不幸の悔みから歸りに  
さまよつた揚句

平町三丁目魚行商太田イク  
の夫太田菊治(五七)は今朝三  
時半頃松ヶ岡公園辰辰役砲  
臺跡の下で櫻の木に帯を結  
び付け首を果した同人は  
常から多少精神に異常を呈  
して居たが昨夜隣に不幸が  
あつて悔に行つての歸り足  
で何處さまよつてもなく公  
園に至り自殺を遂げたもの  
である

#### 妙見神社で

### 賞假裝行列 十八日の夜に

平町白銀町妙見神社は十八



柳川なへ

材料として骨抜き鱈五十奴  
新半ばう一本、鶏卵二個、  
煮出汁、酒(煮出汁の三分の

### 青三名逃走

平驛で取押ふ

石城郡平窪村大字平窪矢吹  
勝次郎雇人藤田利雄(九)同  
村淺次郎四男相川實(三)同

一)醬油、砂糖等を用意し午  
ぼうの皮を庖丁の峰でこそ  
げ、洗つてそぎ、暫時水に  
つけて、あくをぬきざつと  
ゆでます、ゆだつたらば底  
にとつて水氣をきり、平た  
い鍋に平らかに敷き並べて  
その上に製縮を皮つきの方  
を上に出して並べ、煮出汁  
に酒を加へたものを、ひた

### 大金の出所

實は妹を種の  
詐欺常習犯人

住所不定神奈川縣横須賀市  
公御町生れ高橋武止郎(三三)  
は去月中から石城郡湯本町  
旅館備中屋に滞在し多額の  
金を湯水の様に浪費する舉  
動怪しき爲め平署は其金の  
出所に就いて嚴重取調べた  
所一寸も要領を得ないので  
肩書地横須賀警察署に電報  
を以つて身元照會した所が  
同人は本年七月十七日同市  
安浦町三丁目料理店花月事  
山田ヌイ方に自分の妹ヨシ  
の寫眞を見せて酌婦奉公を  
契約し前借二百圓を受取り  
妹を住み込ませ逃走した  
犯罪の外横領前科一犯を有  
する事判明引續き取調中で  
ある

### 縣議改選期切迫し 各派夫々對策を協議

#### 政友派遊説部來る

民政派は昨日支部發會式

縣會議員の改選期が愈々切  
迫したので各政黨は夫々對  
策の準備に着手したが石城  
郡政友俱樂部にては十七日  
午後一時から平町三丁目山  
田忠太郎氏方に最高幹部  
會を開き諸般の打合せを爲  
すをキツ掛けに候補者の豫  
選會を開き且つ本部特派員  
の兒玉亮次、高橋熊次郎、  
八田宗吉、堀切善兵工の各  
代議士を迎へ、廿二日は四  
倉、平、廿三日は植田、小

#### 健保巡回宣傳

縣健  
康保險者主催の巡回講演會  
及衛生宣傳活動寫真會は十  
二日午後一時から石城郡好

### 日大生が熱辯を揮ふ

十八日の夜聚樂館で

日本大學福島縣人會にては  
日本大學東北郷土會、創造  
日本社後援の許に十八日午  
後五時から聚樂館に於て同  
校在學中の東北學生聯合會  
以つて大講演會を催し講師  
として雄辯會々長山十刺、  
青木孝義、太田徹夫、國分  
史樓の各教授が來演する筈  
であるが學生側としては  
△惱みは人生の偉大を示  
すものなり、高等專政科

### 一哩四錢で

四倉平間の  
自動車猛競争

平町を中心とする地方一帯  
に交通機關の發達は著しく  
殊に乗合自動車の如き平署  
管内だけで五十一臺と云ふ  
驚く可き數字を示し其の交  
通路の如きも平町を中心  
湯本、四倉、上小川、好間  
江名、豊間、赤井、上遠野  
泉等に交通網を敷き從つて  
附近各町村は交通機關の恩  
澤に浴してゐるが各營業者  
間には料金、競争がわたり四  
倉、平間の如き一哩四錢と  
云ふ料金で營業者は經營難  
を嘆じて居るが一般乗客は  
非常に悦んでゐる